学校感染症の出席停止期間の基準　（幼稚園小中学校用）

総社市　吉備医師会　Ｈ２４年版

疾患名		潜伏期間	感染可能期間	主要症状	出席停止期間の基準	備考
第１種	エボラ出血熱、クリミアコンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器感染症（SARS コロナウイルスによるものに限る）、鳥インフルエンザ（H5N1 に限る）				感染源となりうる間は原則入院、治癒するまで出席停止	
第２種	インフルエンザ	１～２日	発症後約３日は感染力が強い	発熱、全身倦怠、関節痛、筋肉痛、咽頭痛、咳、鼻汁	発症後（症状が出て）５日、かつ解熱後２日（幼稚園は３日）を経過するまで	
	百日咳	６～１５日	発症後約３週間（治療で短縮）	最初風邪のような咳、その後発作性の咳込みを反復	特有の咳が消失するまで、または５日間の抗菌剤による治療終了まで	
	麻疹（はしか）	１０～１２日	症状（発熱、咳）が出現する１日前から発疹出現後４～５日	最初２～３日かぜ症状、発熱。その後さらに高熱、発疹が広がる	解熱後３日を経過するまで	（医師により保健所への届け出が必要）
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	２～３週間	発症数日前～症状消退まで	耳下腺腫脹、発熱	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が出て５日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	
	風疹（三日はしか）	２～３週間	発疹出現数日前～後５～７日	発熱と同時に発疹、リンパ節腫脹	発疹が消失するまで	（医師により保健所への届け出が必要）
	水痘（水ぼうそう）	１１～２０日（多くは１４～１６日	水疱出現前１日～後６日	腹部、背中から全身に広がる丘疹が水疱、痂皮へと変化する	すべての発疹が痂皮化するまで	
	咽頭結膜熱（プール熱）（アデノウイルス感染症）	５～７日	発症数日前～後約５日	発熱、咽頭痛、眼球充血、眼脂	主要症状が消退した後 2 日を経過するまで	
	結核	１ヶ月～数年		咳、発熱、全身倦怠	感染のおそれがなくなるまで	（医師により保健所への届け出が必要）
	髄膜炎菌性髄膜炎	２～4日		高熱、吐き気、項部硬直（首が硬い）、精神症状	感染のおそれがなくなるまで	（医師により保健所への届け出が必要）
第３種	コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス				医師が感染のおそれがないと認めるまで	
	腸管出血性大腸菌感染症	２～１４日	多くは数日内	水様性下痢、血便、腹痛、発熱	有症状者は医師が感染のおそれがないと認めるまでは出席停止（無症状保菌者は登校可能）	（ベロ毒素陽性者は医師により保健所への届け出が必要）
	流行性角結膜炎	１～２週間	発症後約２週間	眼球充血、眼瞼腫脹、眼脂	医師が感染のおそれがないと認めるまで	
	急性出血性結膜炎	１～２日	発症後約１週間	流涙、眼球充血、眼瞼腫脹	医師が感染のおそれがないと認めるまで	
その他の感染症						
	条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる疾患					
	溶連菌感染症	２～４日	咽頭に溶連菌が存在する間	発熱、咽頭痛、苺舌、全身の発疹	抗生物質治療開始後 24 時間を経て全身状態がよければ登校可能 長くても初診日と翌日を出席停止にすればよい	
	ウイルス性肝炎	Ａ型２～６週 ＢＣ型１～６ヶ月	Ａ型、発症後１～２ヶ月 ＢＣ型、不定（キャリア化あり）	発熱、全身倦怠感、悪心、嘔吐、右季肋部痛、黄疸	A 型肝炎は肝機能が正常化すれば登校可能 B,C 型肝炎の無症状病原体保有者（キャリア）は登校可能	
	流行性嘔吐下痢症	１～数日	原因ウイルス、細菌による	嘔吐、下痢、腹痛、発熱	流行拡大のおそれがある場合のみ出席停止扱いとする （ 下痢、嘔吐症状の回復後、全身状態がよい者は登校可能）	
	通常出席停止の措置は必要ないと考えられる疾患					
	伝染性紅斑（りんご病）	１０～２０日	感染後１週～１０日 紅斑出現時には感染力はほとんどない）	かぜ症状の約１週間後、両頬の紅斑。四肢、体幹にも広がることあり	発疹期には感染力はほとんどなく登校可能	
	手足口病	３～５日	急性期（ウイルス排泄は２～４週間）	手足口に丘疹、水疱、口内疹、口内痛	症状の安定した者は登校可能 （発熱期や口内痛のため摂食できない期間は休む）	
	ヘルパンギーナ	２～４日	発症前日～数日が感染力が強い （ウイルス排泄は２～４週間）	発熱、咽頭痛、咽頭に水疱	同上	
	マイコプラズマ感染症	２～３週間	２週間前後	頑固で長期にわたる咳、発熱	症状が改善し、全身状態のよい者は登校可能	
	頭しらみ		成虫がいるとき	頭髪に虫卵が付着、頭のかゆみ		
	水いぼ（伝染性軟属腫）	２週間～６ヶ月		粟粒大から小豆大の小さいいぼ		
	伝染性膿痂疹（とびひ）	２～１０日	水疱、びらん面がある間	皮膚に水疱ができ、破れてびらん面をつくる		ガーゼで覆い接触感染を防ぐ